

スライドカンファレンス

<症例1>

症 例：40歳代，女性。

妊娠分娩歴：1経妊1経産。

最終月経：5ヵ月前より出血中等量持続中。

既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：過多過長月経，貧血を主訴に他院より紹介受診（前医内膜細胞診：陰性）。当院初診時，内膜肥厚なし。2cm，4~5cm大の内膜に突出する部分を伴う腫瘍を認め子宮は児頭大に腫大していた（臨床：子宮筋腫疑い）。胸部X線検査で右上肺野に腫瘤影を認め，胸部CTにて両肺多発結節影指摘。転移性肺癌の可能性も考えられ，精査目的でMRIと子宮内膜擦過細胞診，子宮内膜生検施行。その後，手術となった。

検 体：子宮内膜擦過細胞診（エンドサイト）。

回答者診断：未分化子宮内膜肉腫。

出題者解答：未分化子宮内膜肉腫（第3版子宮体癌取扱い規約（以下；規約3版））。

高悪性度子宮内膜間質肉腫（第4版WHO分類（以下；WHO4版））。

解 説：細胞学的には，炎症性または出血性背景に内膜細胞集塊と，孤立散在性に裸核様の腫瘍細胞が多数出現していた。内膜細胞は間質細胞の付着を認め，

細胞異型や構造異型は認めなかった(写真1)。一方で，腫瘍細胞は細胞質縁不明瞭で，細胞質はライトグリーンに淡染しわずかであった。核は類円形~楕円形で大小不同がみられ，クロマチン増量は比較的少なく細顆粒状を呈し，明瞭な核小体を有するものもみられた(写真2)。腫瘍細胞は比較的単調な形態を示し，血管束の周りを腫瘍細胞がとりまく像もみられ（写真3a）未分化子宮内膜肉腫が疑われた。しかし，核の切れ込

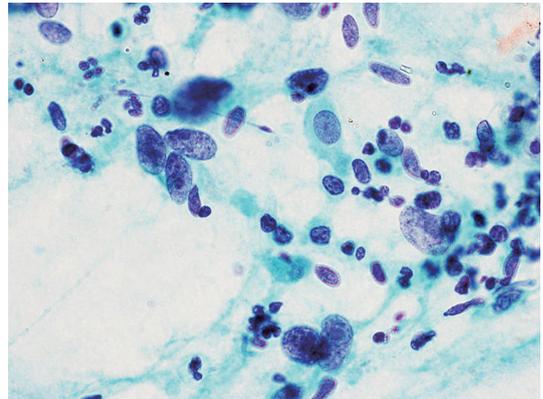


写真2 孤立散在性に出現する腫瘍細胞（Pap.染色，×100）。

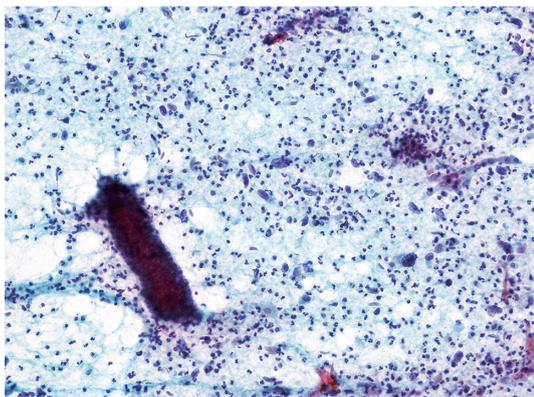


写真1 炎症性または出血性背景に内膜細胞と裸核様の腫瘍細胞を認める（Pap.染色，×20）。

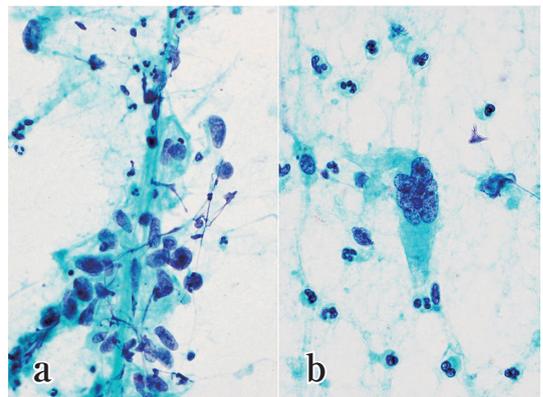


写真3 a：血管束の周りを腫瘍細胞がとりまく像。b：多形性の目立つ大型異型細胞（a：Pap.染色，×40。b：Pap.染色，×100）。

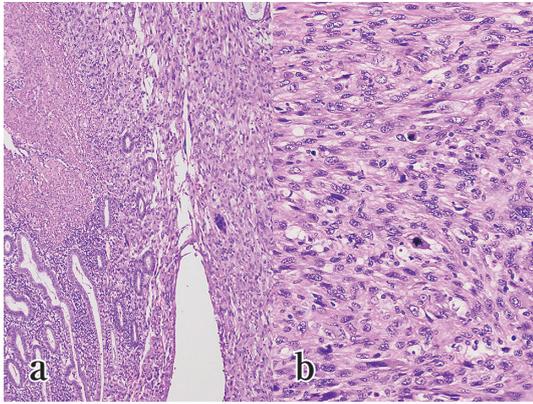


写真4 a: 正常の子宮内膜上皮や間質と境して腫瘍細胞の増殖がみられる。b: 多形性をみる異型細胞が充実に不規則な交錯パターンをとり増殖している (a: HE 染色, $\times 10$ 。b: HE 染色, $\times 20$)。

みなど著明な核形不整を示す大型異型細胞 (写真3b) も認め、平滑筋肉腫も鑑別にあげられ、細胞診での組織型の推定にはいたらなかった。

摘出標本では、子宮体部に $14 \times 12.5 \times 3.5$ cm 大の黄色調～淡褐色調腫瘍を認めた。組織学的には、類円形～短紡錘形細胞、大型不整形細胞が充実に不規則な交錯パターンをとり増殖、浸潤していた (写真4)。腫瘍細胞は筋層へも浸潤し、出血や壊死、1視野に数個の核分裂像を認めた。免疫組織化学 (以下: IHC) では、CD10 陽性、 α -SMA 部分的に陽性、h-caldesmon, ER, PgR はいずれも陰性を示した。以上の所見から未分化子宮内膜肉腫 (規約3版)、高悪性度子宮内膜間質肉腫 (WHO4版) と診断された。

本腫瘍は内膜間質細胞に由来するまれな腫瘍の一つで、名称は変遷があるが、WHO4版では分子病理学的解析結果 (YWHAE-FAM22 A/B 転座) も加味さ

れ高悪性度子宮内膜間質肉腫の名称が復活している¹⁾。本腫瘍の細胞所見は、内膜間質細胞に類似する異型細胞が孤立散在性に出現し、核形不整や核クロマチン増量、核小体の腫大を認め、核分裂像や壊死も観察される。また、細胞の一端が細長くほうき星状を呈したいわゆる comet cell の出現や血管束のまわりを腫瘍細胞がとりまく像は本腫瘍の比較的特徴的な細胞所見であるという報告もある^{2,3)}。鑑別が必要な腫瘍として平滑筋肉腫があげられ、平滑筋肉腫は本例に比し、紡錘形細胞が主体であり、核の大小不同や核異型が目立ち多彩な細胞像を呈することが多い。しかし、両者は典型的な細胞像を示さず鑑別が困難なこともあり、本例においても一見、単調な形態を示す腫瘍細胞が孤立散在性に出現していたが、多形性の目立つ大型異型細胞も認められ、細胞診での組織型の推定にはいたらなかった。本腫瘍は CD10 陽性、h-caldesmon 陰性を示すのに対し平滑筋肉腫は逆の結果を示すため、細胞転写法による IHC の併用も鑑別に有用であると考えられた。

筆者は、本論文において開示すべき利益相反状態はありません。

文 献

- 1) 森谷卓也, 柳井広之編. 腫瘍病理鑑別アトラス子宮体癌. 東京: 文光堂; 2014: 71-76.
- 2) Hsiu, J.G., Stawicki, M.E. The cytologic findings in two cases of stromal sarcoma of the uterus. Acta Cytologica 1979; 23: 487-489.
- 3) 橋 真一, 岩崎秀昭, 平井康夫, 古田則行, 鈴木 博, 井浦 宏・ほか. 子宮内膜間質肉腫捺印細胞診に血管所見が特徴的であった3例の検討. 日臨細胞会誌 1999; 38: 587-590.